

## グローバル都市マニラと都市底辺層(5) 都市空間の再編とストリートベンダーの階層化

特定非営利活動法人 社会理論・動態研究所 吉田舞

### 1. 目的と方法

近年、フィリピン・マニラでは、都市空間の再編が進んでいる。本報告では、ストリート・ベンダー(公共空間での物売り)を、スクオッター居住者の底辺職種として位置づけ、都市空間の再編のベンダーへの影響を考察する。経済のグローバル化のもと、世界中の都市において、都市空間資源への資本投下と、それにとまなう労働階層の再編が続いている。また、都市空間のジェントリフィケーション[Smith 1996=2014]や美化計画が進められるなか、公共空間の使用規制が厳しくなり、貧困層が締め出されている。マニラにおいては、国立公園や教会周辺の公園など、治安対策や美化計画による空間の再編が進んでいる。その影響は、ストリート・ベンダーも、例外ではない。このような流れのなか、これまで行政や資本の介入がほとんどなかった「インフォーマル」なストリート・ベンダーの世界に、いま、福祉型/資本型ベンダーなどの「フォーマル」なベンダーが新規に参入しつつある。本報告では、これらの問題状況を背景に、次の2点について考察する。まず、マニラにおける公共空間のジェントリフィケーションと美化計画の現状について、ベンダーの生活の変容を通して考察する。つぎに、それらの空間再編が、都市底辺労働にどのような影響を与えているかについて考察する。本研究では、2013年9月と2016年3月にマニラ市内のA地区および国立公園でフィールド調査を行った。報告では、フィールド調査のデータを用いて、都市開発による空間の変容とストリート・ベンダーの階層化とその意味について分析・考察する。

### 2. 結果と結論

都市開発が都市底辺労働へ及ぼす影響は2つある。一つ目は、公共空間の再編とベンダーの規制・制度化により、これまで比較的安定していたベンダーの収入稼得の機会が不安定になったことである。A地区の街路には、販売許可はないが、物売りにより長い間生計を立ててきた人びとがいた。それらの人びとには、比較的安定した収入機会があった。しかし、美化政策や犯罪対策のため街路使用の規制が厳しくなり、その結果、収入稼得の機会が、予測不能で不安定なものになった。二つ目の影響は、資本と行政がベンダー業に介入・参入することにより、ベンダーの階層化が進んだことである。資本系ベンダーの参入により国立公園内の零細ベンダーは、排除の対象となりつつある。他方で、公園を利用する人びとも変化し、資本系ベンダーが売る清潔感があって高価な商品を好む顧客が増えている。本来、富める者も、貧しい者も隔てなく利用できるはずの国立公園は、富める者に私的に占有された「疑似的な公共空間 pseudo-public space」[Drummond 2000]となりつつある。このようななか、資本系ベンダーと個人店舗の格差はさらに拡大する。また、元ホームレスを対象とした行政のベンダー事業では、同事業では無期限で営業が許可されている。これは、従来、行政が行ってきた貧困者への一時的な資金援助と比べて、画期的ともいえる。しかし、このような貧困対策としてのベンダーのフォーマル化は、安定的なベンダーを生み出し、それがベンダーの階層化を進めている。